

# 空想に 生きる

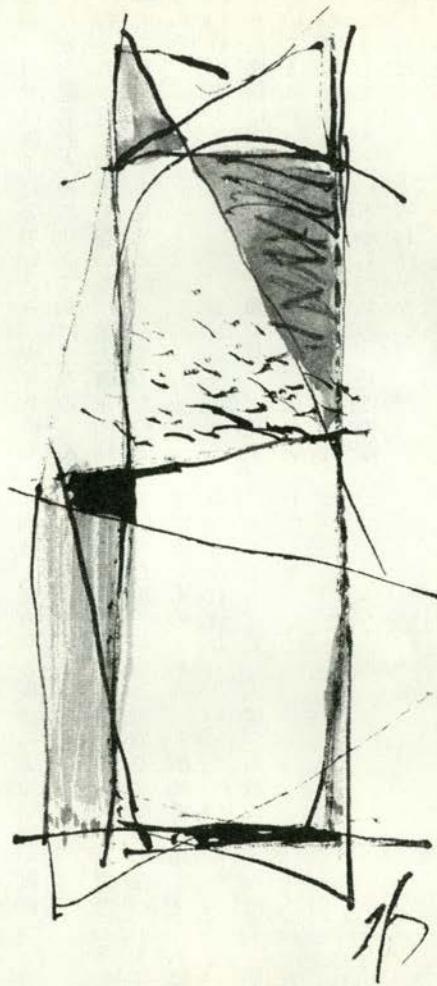
杉山平一  
え・津高和一

□ 隨想 □

材木置場で、子供が遊んでいる。あるものは保安官になり、あるものは悪漢になり、材木のかげから覗いたり、撃たれた恰好で悶絶したりして、夢中で、いかにもたのしそうである。

路上で、それらを見ながら、私はうらやましいと思う。そして、長ずるにおよんで、この模倣、演技の陶酔は消えてしまうのか、と思う。

ところが実は、これが昂じて役者になる人は別として、誰もが、この遊びを持ちつづけている。若者になるにおよんで、小説を読み、映画を見自分がその主人公になることによって、涙を流し笑い、昂奮するのである。登場人物になり切らね



ば、鑑賞するたのしみはない。没入できなければ読んだとか、見た、ということにならない。

抽象的な音楽を聞く場合でも、われわれは何かになって空想してたのしむのである。子供は、王とか大鵬とか、つねに強い者にあこがれる。けれども、遊びにおいては、撃たれたり斬られたりする側に立つことも辞さない。そして閑絶するかたちを、たのしむ。それは敗北の屈辱を越えて、真似る模倣する演技する喜びを味わうことを見つけるからである。

結城哀草果氏の話で、地方からいい歌を送つて

くる人に注目していたが、その貧しく苦し悲しい生活を述べた歌に同情して、その地方を旅したとき、その人の家を訪れたところ、その人がその地の豪家で裕福な人だったのに驚いた、ということがある。

少女が、自分は継子だと思い込み、友だちもいい、自分を悲劇的人物に仕立てあげたのしんだり、むかしは首に綱帯を巻いて、美人薄命の肺病やみであるかのごとく見せる傾向があつたのと同じである。

われわれが町をあるいていて、ふとショーワインドー や店の鏡にうつった自分の顔を見て、見すぼらしいことにハッとするのは、絶えず、何か美しいもの素敵なもの、いい恰好に演技し、そうなれば、真相にハッとするわけがない。

アメリカなどへ行つていた人が、英語もうまくなり、近所の奥さん方と一緒に生活していて、ふと鏡を見て、自分が黄色い平べつたい顔をして

いるのに、ドキッとしたたりするのも、われわれが絶えず錯覚に生きていくからであろう。

自分以上のものになろうと演技し、錯覚におちていること、これがわれわれの「生きる」支えである。つねに地上三尺を浮いて歩いているから、われわれはたのしいのである。

ひところ「ながら族」という言葉でラジオをききながら勉強する子が叱られたが、私も、ものを書くとき、安物のトランジスター・ラジオを机においている。音楽をききながら、自分以上のものに浮き上つて、ものを考える。

むかしの線路工夫は、歌に合わせて労働したしよいとまけの女たちも、歌と共にはたらいた。そろすると、疲れないので、仕事がはかかるのである。兼高かおる氏のテレビを見ていても、音楽の伴奏つきで洗濯をしている土人がある。

演技と気取りと模倣による空想の陶酔が、力をつけるのである。

ボーディールは「酔つていなければならない」といつたが、錯覚と気取りと演技のない人生は、さびしいものである。「醒めている」と、人は自殺しなければならない。

演技と氣取りと模倣による空想の陶酔が、人をもつとも、若い人は、自殺にさへ陶酔し、演技してしまつが。

□ 隨想 □

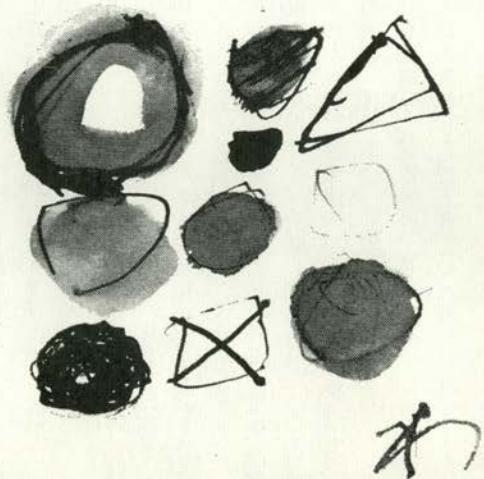
# 神戸音楽と

吉村一夫  
え・津高和一

神戸が、ホントに神戸らしかったのは、戦前だったと、私達の年配の者は思い込んでいます。「神戸らしい」とは何をいうのか。というような、お堅い話は別の機会にして「長崎とお蝶さん」風な妙にうらやましい欧米崇拜と、劣等感の交つた、異国情緒と呼ばれる、表面のムードだけでなく、少くとも「音楽」の世界では、今日の日本の音楽を生み出す、静かで、力強い胎動の源が神戸でした。

「蘭学事始」に見られる、日本の開眼が長崎に始つたように、「洋楽事始」は、神戸から始つたといえましょう。昭和の始めごろ、東京で近衛秀麿指揮で、現在の「N響」の前身である「新交響楽団」が、ベートーベンの「第九交響曲」を上演すると、その独唱者は神戸在住のレビナー博士のバリトン、ダンネールのような名前の女性アルトが

常に参加したもので。私の中学生から高校生時代のことと、彼や、彼女が、何の博士やら、どんな経歴のアマチュアか記憶にありませんが、当時カラスロバと云うロシア系の声楽の先生がいて、北沢栄を始めとして、現在の声楽の指導者を育て上げたもので「カラス」の愛称で懐しく話題になります。ピアノでは、カバリヨフ・ルーチン（モギレフスキイ教授の実兄）などが、近代の日本スピアニストを育て、バイオリンでクレーン、モギレフスキイなど中には、世界の楽界の何処に置いても一流中の一流である芸術家が含まれていま



コーラスに結びついているといえましょう。当時の神戸は、青谷から山本通りの一带の山手は、在留外人の住宅地で、古風な、欧風コテージがならび、「たたずまい」という言葉にピッタリした町並みでした。下山手にあったY.M.C.Aのホールが唯一といつていいもので、「在日外人音楽会」がよく開かれたものです。ラスカ指揮の「宝塚交響楽団」が、活発な定期演奏会を開いて、音楽的飢餓を救つてくれたのもその当時のことです。「宝塚大劇場」には、上海あたりで結成された旅廻りの歌劇団が、「サンカルロ」とか「カーピー」の一流らしい名前で、オペラの名作のほとんどを一通り聞かしてくれたのも、貴重な思い出です。今日でも、これほど安直にオペラの常識を吸収できる機会はえられない。多分に、居留地文化の臭いがしますが、実質的には、今日の日本の現状が、これらを一笑に付するほどの高さにはいたつてしません。当時、モギレフスキイにバイオリンを習つていた私は、青谷のミユラー宅でトア・ロードのルーチン宅で、週一回のレッスンに、東京から見える先生を訪ねたものです。

帝制ロシア時代の、ロシア随一の演奏家に接する喜びと、その豊かな話題に傾倒したものですが、大学出の月給六〇円の中から月謝四〇円を月謝として払つて、然かも叱られっぱなしでした。今日のお金では、三万円の給料の中の二万円を差し出し、一週一回分が五千円の勘定です。「お前らのバイオリンを聞いていると、お腹が痛くなる」「バイオリンを弾かない時の、お前は大好きだ」と、さんざんの悪口でしたが、「さあ、バイオリンが済

みでした。當時、神戸は、全く変りました。居留地の面影を失い、日本の六大都市のドン尻の様相を救つてくれたのもその当時のことです。「宝塚大劇場」には、上海あたりで結成された旅廻りの歌劇団が、「サンカルロ」とか「カーピー」の一流らしい名前で、オペラの名作のほとんどを一通り聞かしてくれたのも、貴重な思い出です。今日でも、これほど安直にオペラの常識を吸収できる機会はえられない。多分に、居留地文化の臭いがしますが、実質的には、今日の日本の現状が、これらを一笑に付するほどの高さにはいたつてしません。当時、モギレフスキイにバイオリンを習つていた私は、青谷のミユラー宅でトア・ロードのルーチン宅で、週一回のレッスンに、東京から見える先生を訪ねたものです。

帝制ロシア時代の、ロシア随一の演奏家に接する喜びと、その豊かな話題に傾倒したものですが、大学出の月給六〇円の中から月謝四〇円を月謝として払つて、然かも叱られっぱなしでした。今日のお金では、三万円の給料の中の二万円を差し出し、一週一回分が五千円の勘定です。「お前らのバイオリンを聞いていると、お腹が痛くなる」「バイオリンを弾かない時の、お前は大好きだ」と、さんざんの悪口でしたが、「さあ、バイオリンが済

んだら、フロインドリープ（友愛）に行こう」と、お菓子をご馳走になつた、フロインドの店も懷しい思い出です。

戦火をうけた神戸は、全く変りました。居留地の面影を失い、日本の六大都市のドン尻の様相がそのままのものです。戦後、音楽会場として栄光教会、海員会館などの時代を経て、神戸新聞会館、神戸国際会館の存在する今日の表面的な発展が見られます。がその内容の充実は後日に期待されるのみです。戦前の聚楽館が「文化の殿堂」であった時代にも、横浜のように、大阪に隣接する神戸が、独自のカラード、その存在を主張することは、非常に困難になつてきました。「楠公さんと瓦せんべい」の代表する神戸が、色あせつつのと同様く、大都市の規格化とともに急速に、古い神戸の色香を失っているようです。「港町神戸」は現在ではたしかに残り香を持っています。若い女性の服装などには、大阪では感じられない開放感と、個性を感じますが、文化一般（特に音楽に限らず）に神戸の特長を感じ取ることは困難なことです。

別の見方からすると中央集権の最も甚だしい国である、日本の政治、経済、文化の全てが、ローカルな特色的破壊、吸收の方向に、文化国家の旗印のみを掲げて、突進しているようです。他の大都市が「交響楽団」を、市当局で創設しているのなら、神戸市は、世界的な「ジャズ・コンボ」でも組織して、世界に、その名声をひびかせよう



**マキシン** クリスマスの夜  
**美容室** 美しいヘヤー・モードは  
**神戸店** ゆきとどいたサービスシ  
 ックなムードのマキシン  
 美容室へおこし下さい。

*Maxine Beauty Shop*

神戸・三宮神社前三上ビル3階 電 ⑧ 4 9 1 7  
 西寺尾店（文化センター内）・横浜元町店⑨ 0 3 1 2  
 軽井沢店 2771・博多大丸美容室・香港大丸美容室



キミらしい  
 スエターを  
 キミらしく  
 着てください

若人の服飾《マック》

 **MAC**

★三宮本店／神戸センター街⑧0895 ★トアロード店／セ  
 サー街西口⑨0896 ★新聞地店／新聞地本通り⑨557688  
 ★姫路店 ★京都店



金 O-SHIBATA

柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693  
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

Pelo

ネクタイの  
元町バザー

神戸×元町1丁目 TEL (33) 1401 · 7031

# 神戸経済界の人づくりを

★出席者★ 直木太一郎〈神港倉庫社長〉 小泉徳一〈小泉製麻社長〉 小野一夫〈日本香料薬品KK社長〉 柏井健一〈柏井紙業社長〉



——神戸経済同友会は、この十月三日に二十周年を迎えたわけです。

敗戦後、日本経済の再建をめざしてやつてこられたわけですが、その間、いろいろご苦労をされたことと思います。

そこで今日は、その同友会のお話をいろいろとおうかがいしたいと思います。

## 日本経済の再建はまず人づくりから

直木 経済同友会ができたのは、終戦直後、日本の経済を再建しようと、それも、戦前の統制下のような資本主義にもどるんじやなしに、新しい日本の産業経済を再建しようという目標のもとに、生産制工場と、国民に奉仕する経済ということをたてまえとした、全国的な組織として作つたわけで、十年間は、東京を中心に入並みをそろえて進んで来たわけです。その間、いろんなことがありました。が、経営者の社会的奉仕ということを強調して日本の再建される経済の新しい近代的な骨組みができたわけです。

その頃、神戸同友会としては、故牛尾さんが代表幹事として、全国的な組織の中の一つとして地味な活動をやつてきたわけなんですが、牛尾さんが亡くなられてから、地域経済開発という問題が起り、それから、神戸としては、非常にはなやかなアイディア時代を迎えたわけですか。播州臨海工業地帯の開発、京阪神合同少壮会員懇談会、あるいは、神戸バイパスの問題などをとりあげ、神戸の経済界をどうしたら良くなるかと、大いに議論をたたかわせ、また、はなやかな活動をやつた時代ですね。といったわけです。

ところが、その間に東京の同友会は、中央の組織としてアメリカ、ヨーロッパへ人を派遣したり、経済団体との連携をはかりながらして対外的に、国際的な視野を広めましたですね。

小泉徳一氏



神戸の将来というものに関しては、近畿における神戸の役割というような、いろんなことをとりあげたんです。どっちかというと社会開発の方へ考え方があきまして、国民の生活水準の向上ということが一番大切だというこから、近畿流通センターをつくったわけです。それは、国民生活に非常に関係のあることで、それが尾を引いて、これからは、公害問題なども取りあげられていくんではないかと思います。

ところが一方、港経済は封鎖経済から、解放経済へ移り、世界の荒波の中に追っぽり出されるというようなことになり、日本の産業経済はどうしたら、その世界の荒波にたえていけるかということから情勢が大きく変化しておりますね。

それが、経済界の大きな問題になり、輸出第一主義から利潤の追求という問題もおこってきますし、産業界、



小野一夫氏

あるいは企業界の統一改善の問題も起つてくるわけです。同友会としても、先進国なみに世界経済の中へのり出しにたえていくためには、ある程度の犠牲もかえりみずやらないかんということを承知してゐるんじゃないかなと思うんですね。

また、封鎖経済の中の考え方と、開放経済の中の考え方を根本的に変えなきゃあいかん。そのためには、單に考え方だけでなくして、それを担当する人もえていかなければならんということになるんじゃないですかね。元来、経済同友会というのは、つぶれてしまつた日本の経済を再建するには、物もお金も大事だけど、一番かんじんなのは、人だということで、人づくりということが強くさけばれたんです。今また、経済同友会の中では現在のこの状態の中で、世界の荒波にたえていくべき日本経済を、どうになつていくかということを以つて、人づくりの問題も今後、考えていかなければならぬんじゃないかと思いますね。

**小野** 経済団体の中で同友会が果してきた役割を、別な角度から申しあげると、東京で経済同友会を作ろうじゃないかということで人が集つた時、もちろん、その中には、著名な方もいらっしゃつたけど、大多数は、どちらかと申しますと中堅層と申しますか、世間一般にあまり名の出ていない人達が寄つて、むしろ有名人とかお年を召された方は、ご辞退していただき、中年から若い者だけ勉強会をやろうじゃないかということでできたわけです。

したがつて、あの当時、停電の多い中で、本を読み、本当に書生っぽいというか、外に向つてしまふんじやなしに、内でお互いが切磋琢磨していくこうということで経済団体というよりは、むしろ勉強する読書会という考え方で出発したわけです。

だから、そこには、年代の若さというものもありますし、好きなことがいえ、夢があつた。だから、一時は修正資本主義ではないかともいわれた



柏井健一氏



直木太一郎氏

ですが、何も同友会全体が修正資本主義をとなえたんじゃないわけです。

それに、私はいつも申しあげるんですが、資産再評価の問題をとりあげ、何度も発表していくことをやつたらどうかといったのが同友会なんですね。これをようやく政府がとりあげたんです。内部の人間は、どう思っているかは別にして、これが経済団体として外部が認めた最初のスタートだと思うんです。

ここで、初めて同友会が読書会から経済団体に脱皮したといえますね。

直木 二十年前ですかねえ。私が四十年代で小野さんは二十代のときですよ(笑い)。

### 同友会本来の意味を考えよう

小野 初期の東京の同友会なんか愉快ですよ。

小泉 勉強が好きな人とか、経済問題をいろいろ考えるこの好きな人たちが集っていたんじやないですかね。先程、勉強会というお話をありましたが、最初外部から見ていますし、特異な経済団体という感じがありましたねえ。経営者というものは、こういうふうに考えるとんだとか、こういう悩みを持つておるとかね。

そういう意味でも、経営者というものの、一つの考え方をほかの経済団体では、いいにくいというような意味で特殊な性格を持っているし、それだけにアピールした

自民党からは誰かが来てたし、社会党から浅沼稲次郎氏がきてお祝いを述べるんですよ。若い者の勉強会だといふんで、いろんな政党から人を呼ぶ、そんな雰囲気だったわけです。

やがて、だんだん経済団体へ脱皮していくし、日本経済も非常な成長をとげる。そしてその成長に伴って、必ずしも同友会の会員であつた人が一〇〇%、著名人になつたとか、成功したとは申しませんが、この経済団体の中で非常に多くのエリート達を生んだ母体であることは間違いないですね。

そこで、同友会もだんだん経済団体としての発言力も増し、同友会自身が少し政策的というか、意欲的な経済問題の中に仲間入りしようというふうになつて、今日に及んできるんじやないかという感じがしますね。

直木 同友会から、多くの人が関連や商工会議所、経済審議会など、現在の経済界で活躍しておりますが、だんだん認められて、自然にそうなつてしまつたという感じですね。

ただ、日本経済の再建ということだけを考えてやつてきただけで、今から振りかえつてみて、初めてそういうふるわけですね。

小野 エリートの母体になつたといいましたが、そういう意味で人選したんでも、なんでもないんです。結果的に見てたまたま集つた中からエリートを出したというだけです。

んじやないかと思ひますねえ。

**柏井** そういう性格というものは、残していかないと、同友会としての本来の意味はなくなりますよね。

**小泉** 根本的なことを考えて、いこうという思想が、現在でも依然として残っているような気がしますね。

**小野** それはありますよ。ただ、どうしても考へ、考へることオンリーだったのが、責任が出てきたから、あまり奇抜なこともいえないし、かといって昔の同友会にもどるといつても、これは無理ですよ。そこの調整をどうやつてとつしていくかということですわねえ。

### 実行する団体へ

**柏井** 私も、ずっと後に入会させていたいたんですが同友会の席でみなさんのお仕事を拝見して参りました。このたびの二十年史の発行の時も、直木さんがいわれました。が、同友会はどうへいくんだと、今後、同友会をどういう方向へもつていくんだということに関しても、どうにも同友会の色彩がなくなってきた、経済団体と同じ形になりつつあるというわけですね。

過去においては、少社であった人たちが、日本のオピニオンリーダーとしての役割を果してきたんだと。先ほど、小野さんもいわれたように、今から創始の精神にもどつてやるといつてもどうも宙に浮いてしまいますしね。直木 私はやはり、同友会は考える団体、アイディアを出す団体だということで、一部で非難されたことがありますけど、私はそれでいいんじゃないかと思います。あの当時、近畿経済開発のために出した、いろいろのアイディアは、今だに生きているんじゃないかと思いますね。

あの当時、われわれの出した阪神ポートオーソリティの構想とか、あるいは近畿流通センターの構想とかいうのは少し大きすぎて実現の途についてないですが、いつか実現されるアイディアだと思いますね。

人間像の問題にしても、今話題になっていますが、わ

れわれ同友会は、時代をあまり先がけすぎた感じがするんですよ。われわれが五、六年前にいったようなことがこの頃よく新聞の話題になってますからね(笑い)。

**小野** 同友会が早い目にいろいろと問題を打ち出しておいたから、世の中がああいう風に動いてるんだと思ってれば良い(笑い)。

**小泉** しかし、最近は地域開発の新しいアイディアは、ほかにお株を取られた感じであまり出ませんねえ。

**小野** 神戸だけではないですよ。でも、ほかのいろんな団体が地域開発問題を真剣に考えるようになったということはやはり同友会の功績ですね。

**柏井** ポートオーソリティの案が出た後に、ポートアイランドの構想なども出でますしね。

**直木** しかし、産業経済の発展ということと、神戸経済同友会、少なくともその途中から人間像の問題にとり組み、さらに国民生活の問題にとり組んで変わってきたということはありますねえ。

最初は、日本の経済の復興をはからないかんというのになりふりかまわらずやってきたけど、少しできると礼節を知るといいますか、それから他人のことも考え、国民生活の向上ということに目を向けてきたんじゃないかなと思うんです。

もう少し、ほかの経済団体以上に、同友会でこの問題をつっ込んでもらいたいですね。

それから、この頃、公害問題にとり組んでいますが、もっと経済界で積極的にのり出すべきですね。経済同友会自ら、本当の公共福祉はこういうものだということを明らかにしてほしいですね。

**小野** 第一回倉敷ゼミの時でも、雇用問題として今の教育制度学校制度はこれでいいのかとか、今後考えるべき問題がまだまだたくさんあるということですね。

△於オリエンタルホテル

## 経済ポケット

### ジャーナル



創立七十周年をむかえた

川崎重工業

川崎重工が去る十月十五

日、創立七十周年を迎えた。

川崎重工業

明治二十九年株式会社川崎

造船所が資本金二百万円で

発足して以来、数々の困難

を乗り切って今日では資本

金百二十億一千六百万円、

従業員一万一千七百六十

人。明春五月には世界最大

の建造ドックを備えた坂出

工場が完成する。

同社七十周年を記念して

砂野仁社長が「育英資金

に使って下さい」と五千万

円をボンと神戸市に寄付し

た。

砂野社長は「昭和三年の

恐慌時、政府が三千万円の

融資を閣議決定していたが

違憲問題でダメになつた。

このピンチに神戸市が市

会の特別決議で三百万元(

いまのかねで約十七億円)

を融資してくれた、川重は

助かった。今日の偉容を整

えたのはまさに神戸市の援

助があつたからだ。七十周

年の記念事業費をさいて五

千円で、ジエトロに手続

千万円を育英資金に寄付さ  
せてもらった」と、当時を  
しおび日をうるませて語つ  
た。砂野社長はまた、「地  
域社会と共に歩み、繁榮す  
る」——というアーモン(米  
国の鉄鋼会社)ボリシイ  
にならつて、川重精神を打ち  
出さ」と、「恩返し」の弁をのべている。

#### E E C 規制緩和に一役

神戸市は昨年に引き続き  
マルセイユ見本市に参加し  
たが、同見本市とショッセ  
ルドルフ六大城市輸出品展  
示会に出席した有岡神戸市  
助役は「灘の生一本と神戸  
の真珠に人気があつた」と  
次のように報告している。

マルセイユ見本市は神戸  
市の単独参加。E E C 規制  
緩和と神戸市のP Rがねら  
いだが、おみやげに持つて  
いつた灘の生一本と酒杯・  
とつくりセットが大好評。  
ジュニセルドルフの百貨店  
で開いた日本品即売会でも  
日本酒が人気的だった。マルセイユのデパートから

規制のきびしいE E C 相  
手に灘の生一本と雑貨で、  
今後とも切り込む余地が出  
てきそう——と、見本市参  
加の効用を説いているが、  
さて、来年は予算上参加で  
きるかどうか、市としてな  
あまり乗り気がなさそうな  
口ぶりだ。



大阪商船三井船舶の超高速  
貨物船「べるけん丸」竣工

大阪商船三井船舶はかね

てから三菱重工に発注して

いた12,587 DWT超

高速定期貨物船2隻のうち

の第一船「べるけん丸」(1

2,587重量トン)の引

渡式が10月20日午前10時か

ら三菱重工神戸造船所第4

岸壁において行なわれた。

「べるけん丸」は長さ15

23・20尺、幅15

6尺、高さ15

均24・83ノット。さる

10月8日に大阪湾で海上試

運転を行ない、好成績を収

めた。この船は世界でも最

高級の超高速船で、機関部

を中心、船体および電気

部に徹底した自動化と、合

理化が施された経済性の高

い最新銃船である。引渡後

は欧州・日本間に就航の予

定で、積荷は往航は雑貨、冷

凍貨物、復航は雑貨、冷

凍貨物のほか肥料などが予

定され、活躍が期待されて

いる。

\*KOBEオフィスレディ\*



高見品子さん (20)  
神戸市役所監査事務局勤務

20人の男性ばかりの職場で女性は2人きり。庶務の仕事をいっさいまかされているので初めは骨が折れたが、今はもう慣れたといふ。読書が好きで須磨高時代から新書が出ると片端から買い求め、読むそうだ。同室の男性から見た彼女は「情熱家」で「勉強家」である。好きな色は黒、白、グレーと地味な好み。身長161センチ。

若さと  
スタミナを  
プラス

## 扇雀サンドオコシ



## 鷹治郎飴本舗

本社

神戸湊川神社電停前  
電話④1242

営業所工場

生田区仲町通4丁目  
電話④2663

各種産業菓子博に於て  
大臣賞他受賞多数  
御歳暮にご贈答に



神戸名物  
**瓦せん貝**  
歐風煎餅  
クリーム食パン  
フレーバーパイ

創業明治6年  
**龜井堂總本店**

本店 神戸元町通6丁目浜側 ④0001<代表>~0003

売店 神戸 / 三越、そごう百貨店 大阪 / 阪神甘  
辛のれん街、近鉄百貨店、松坂屋百貨店 東京 /  
小田急百貨店、小田急のれん街、新宿ステーション  
ビル有名物産内 九州 / 小倉東映、博多民衆館

# 神戸ドキュメント

最終回

## 北野町

有井 基

「北野町も変わりましたねえ」古いタクシーの運転手は口をそろえる。そうかな、変わったかな、比較する昔を知らぬ私は思う。「どうなの今は?」「いいのが須磨の方へ行きましたよ、ひとこころは四、五軒あつたんですがね。」シークレット・クラブの所在である。「いまはトア・ロードの突き当たりを…」と教えてくれる。別の運転手に聞いたと同じ『女の館』だ。一朝の夢が二万円ナリ、とてもいいそうです。と力をこめるので、どういいの、と問い合わせたら「いい匂いがするそうです。」香水が高価なんだな、と私は単純に理解した。この種の

風説、体験談はよく聞く。が、たしかめよう気など毛頭ない。

「なきれないナ。北野町の変ぼうぶりを聞いて、まつさきに返ってくる答えが生理的な話題とは、どういうことだ。そんなものは根も葉もないウソだよ。このあいだも白糸露人の孫娘とどうの、というヤツがいた。娘では年齢のつじつまが合わないから孫といつたのだろうが、北野町界隈の外人なら全部知ってるぜ、と吹いてやつた。するとそいつ、とにかく金髪で、ひょっとすると進駐軍との混血かも知れんと、うろたえとつたよ。外人の子女、いや、北野町の名譽のために許しがたいな、いい加減なこういうやつは」

変りゆく北野町をさびしく見降す白い塔

禅寺で知り合って以来、懇意にしている琴・尺八の師匠Y氏がどなりつけるようにいった。行雲流水、清濁あわせ呑む風雅の士にして珍らしい怒氣である。彼の推理によれば、金髪娘の一件は、たぶん港の外人バーがヒマで、カツラをつけた商売

女が化けたのだろう、男は醉眼でホテルに連れこまれ、あとでだまされたと知つてもそこは男の面目、話をこさえたに違いない、という。すべてはホテルがのさばつてゐるがゆえに生じる誤伝である、といふのである。

神戸の代表的な山手住宅街、生田区北野町周辺で、あやしげなホテル進出へ、反対機運が盛り上がつたのは昨年夏。当時、隣接する中山手通、山本通の旅館・ホテルは計三十二軒。この両通りは学校が密集してて旅館業法による営業許可基準（学校周囲百㍍）がきびしいため三十九年ごろから、業者は北野町へ目をつけた。まず四丁目に三軒。北野町のたたずまいは、けばけばしいネオノで一変した。風紀上よくない、冷房装置の音がやかましい、と住民の苦情が相次ぎ、長年住みなれた外人で、いたたまれず引っ越していく人のもあつたという。

四丁目自治会を中心に“北野町を守る会”（馬俊雄会長）ができる。神戸市へ陳情を重ね、風俗営業法、旅館業法の基準に適法なら規制はむづかしい、となると、住宅専用地区に指定せよ、と新らたな要求を持ちこんだ。北野町を中心とする山ろく一帯を住宅専用地区にせよといふもので、既成の住宅地ではかつてないケース。困難視されたが、守る会の運動は、きわめて積極的だった。署名運動にはドイツ人ペアル・ブッキングハウスさんら四十一ヵ国五十人の外人を含む七百五十人がサインした。市長に公開質問状を発し、業者と懇談会を持つた。そのうち市立小学校PTA連合会（大橋正次会長）が、少年非行防止、教育環境浄化の立ち場から、学校周辺のホテル締め出しを決め、神戸東ライオンズクラブ（西村治三郎会長）も“守る会”を強力に支援した。こうした住民の熱意はみのり、ついにことし三月、住宅専用地区の指定をうけた。ねばり勝ちである。

しかし、それで北野町は守られたか。三宮から山手を見て、ホテルのネオンがことさら目につく。暖かい、なつかしみをそそる山の灯はまばら。やはり変わったといふ思いは消しがたい。

ぶりりと歩いてみる。東端の淨水場から西の境界トア・ロードまで。トア・ロードはその昔、居留地・雑居地と山手外人住宅を結ぶ道路で、いわば北野町の表口だがなんとなく雑然として落ちつかない。しぜん私の好きな坂道——三本松不動院からさらに急坂を上へ。両側はおおかた外人の住宅だ。途中、左手の香港上海銀行社宅の下から、外人の坊やが三人、花が降りかかるように駆け降りた。原色の服と栗色の髪が、めっぽう明るい。

登りつめたところに、白い塔の家がある。けぶつたような背山をおんぶして、丸い塔がことさら白い。いつ塗り替えられたのか。十年前、この塔の家に住んでいた時計の研究家・高見至孝さんの葬式に来たとき、塔はくすんだ暗灰色。それがまた下から見ると、ツタのからんだ青いペンキ塗りの板塀と、よく調和していた。たしか今しがた子供の出てきた邸の裏側ぐらいいから見た岡柄である。見当をつけて西へまわると、ぎつしりアパートが建てこんで視野をはばみ、塔の尖端だけがのぞいていた。至孝さんの子息で、私の社の先輩富泰さんによると、白い塔の家はドイツ人の設計で、その後中国人、戦時中は車ひきの親方が住んでいたという。

「いま望海楼のある辺り、焼け跡に異人館の暖炉の煙突が立つていたのが、なぜか印象に濃い。夾竹桃や木犀も多いが、とくに山茶花（サザンカ）は、どこの家にも咲いていた。いま二丁目は市営住宅やアパートが昔のすき間を埋めて、エキゾチックなムードはなくなつたね。だがいちばん変わったのは、ホコリっぽいことだ。目が覚めたら港の朝がみえる。あの閑静な高台が、いまじや自動車のバイ煙で型なしだよ」

追いで立たれる気持ちで、大洋真珠の角を上へ、北野往来する。バイ煙ばかりか無遠慮な音が、港の船のサイレンをも消す。

北野町と山本通をわける道路は、ひつきりなしに車が往来する。バイ煙ばかりか無遠慮な音が、港の船のサイ

鼻先きに豪華なよそおいのホテルが立ちはだかって、これほどの異和感も珍らしい。そばにある海事交通文化研究所・山下新日本汽船北野寮も、ひつそりと暗い。このレンガ造りの洋館は、石綿スレートの屋根も、尖端のコックドール(風見鳥)も、ともに日本最古。写真などでおなじみのコックドールが、木がくれに見にくいで、石段を境内まで上がった。港都を一と目に収める境内からの眺望は、もはや半分も達せられなかつた。いやでもホテルの屋根とネオンが表側の視界をさえぎるからである。だが、境内で鬼ゴッコをする子供たちは感傷と無縁だ。ねたましいほど明るい声をあげつづけた。

わんぱく時代この付近で暴れまわつたというイギリス人。セオドル・デ・ヘーズ・ムーアさんに、三丁目周辺を案内してもらったのは二年前。ムーアさんはその時、幼

時から戦後かなり後まで、山の中腹にともりつけたもしびがあるといった。ちいさなホコラみたいな中に、灯油を置いてあつたそうだ。三宮駅のホームからよく見えたという。それを捜すため私たちは、ハンター旧邸の左側から細い山道をわけ入つた。再度山ドライブウェーへ抜ける近道で、かつては外人専用の登山道だつた。ハンターズ・ギャップという怪奇めいた命名も外人ごのみである。西側一帯が堂徳山。灯のあつたのは左側だが、道がくずれ木が折り重なつていて途中のエン堤から引き返した。ムーアさんはあきらめ切れぬようすだったが、「たしかに灯があつた」と証言する人がいた。淨福寺の下の、炭屋のおやじさんである。「ああ、私はウソをいわなかつた」シンからホツとした英國紳士の、その時の童顔を、私は忘れない。

#### 風見鳥の家を西

へたどり、翠甲園への降り道と別れてハネ上がる道がある。ハンターズ・ギャップへの道

だが、その三叉路で、また大きな幻滅を味あわされた。山のテッペンがようやくのぞける程度に新らしい住宅が建ち、あるいは工事中だつた。山ろくまで足を運ぶまでもない。ひょつとすると、北野町らしいものを求めすぎたのかも知れぬ。ひ



異人館と豪華なホテルとの異和感も今日の北野町だ



残しておきたい神戸特有の異人館

どく疲れた思いで、ホテルの一群をすり抜け、トア・ロードへ出、折り返して三本松へ――。

絵ハガキ的風景を求めたわけでは決してない。清潔で透明なものを搜した。が、見あたらなかつた。古い、見るからに古い洋館の二階から、インド人の幼女が「アーライ」と声をかけた。なぐさめられる思いで笑い返すと、ニコッと肩をすくめた。窓の中の、ちいさな顔が、いきいきと明るく思えたのは、ただ気のせいだろうか。

×

このへんの異人屋敷はどれもこれも古色を帯びていてなかなか情緒がある。大概の家の壁が草色に塗られ、それがほとんど一様に褪めかかっている。そうしてどれもこれもお揃いの鎧扉が、或いは、なれば開かれ或いは閉ざされている多くの庭園には大粒な果実を簾がらせた柑橘類や紅い花をつけた山茶花などが植つていたが、それらが曇った空と草いろの鎧扉と、不思議によく調和していて、言ひやうもなく美しいのだ――よく引かれる堀辰雄の文章だ。昭和七年「言ひやうもなく美しい」かつた山手風景も、三十数年たてば、こうまで変わるものだらうか。千人の外人、四十戸の異人館。彼らの家庭の、実もたわわなキンカン、ニスラウメ、そしてサザンカ。舞台装置は同じでも、主役不在の感じはぬぐえないと。北野町の住民が、宣伝カーでホテル進出反対をさけんでいた時、下町の商店主は「山手の特權意識だ。年間四十万人の内外観光客の、何人が北野町を観に行くのだ。北野町は自分自身で変わろうとしないで、ホテル・旅館の『異物混入』をさわぎ高てる。それでは反対も市民運動になりやせんよ」とやり切れない顔をした。吸引力の強い商店街の役員である彼は「ハッサム邸（相楽園

）にしろハンター邸（王子公園）にしろ、北野町では保存できないという証拠やないか」ともいった。手続き

びしいが、核心の一面に触れていいよう。

住宅専用地区にはなつたが、むづかしいのはこれからである。港都神戸という風土がつくり出した特色のある環境を、中國総貿ハイウェーが通るという。神戸市は「東西ルートの観光基地としての神戸にするため都市再開発計画の線に沿つた調和のある開発」を進めるという。北野町はその外側ではない。その点で「守る会」の馬俊雄会長も

「ホテルの野放し建築はストップしたが、守る会の本筋の仕事はこれからだ。ホテル業者とは積極的に話し合い、フ



北野町の「灯」は消えていくのか？

ロントや外部の設計を変えたり高い目のつく看板、ネオンなどを自粛するようだ。同時に、『守る会』で善意のバザーを催し、売り上げ金で敬老の行事をしたり、自治会へまわすなど、精神的な高まりをはかつているが、住宅専用地区のあり方について、より具体的に検討中だ」

と語る。地区指定の内容からいえば、歴史資料館や美術館などの文化施設がふさわしかろう。奈良市をそっくり文化公園にしようという西山卯三京大教授の構想にならって、北野町を神戸の文化施設と考えるのも一方法にちがいない。が、いずれにせよ都市再開発の長期的な計画に沿つて具体的なイメージが示されないと、この環境をどう生かすか、方向を見失う。しかもそのイメージは住民の意思とマッチすることが必要である。いまの北野町にとつて、まず必要なのは、そのイメージづくりだ――といえないだろうか。

（神戸新聞記者）

*Merry  
Christmas*

クリスマスケーキのお予約はお早めにどうぞ

北欧の銘菓  
**ユーハイム**  
コンフェクト

本社・工場 / 神戸 熊内町1丁目 TEL 22-1164・9865  
熊内店 / (市立美術館東隣)  
三宮店 / 神戸三宮生田筋(階上喫茶室) TEL 33-7343・0156-4314  
神戸デパート店 / 長田区大橋5丁目 TEL 61-2101  
甲子園店 / 国鉄甲子園口駅(北口)・芦屋店 / 国鉄芦屋駅前通・堂島  
営業所 / 大阪堂島中町ビル地階・梅田店 / 大阪梅田地下センター  
栄町店 / 名古屋栄町ビル地階・千種工場 / 名古屋千種区若水町・大  
丸店 / 神戸・京都・阪急店 / 神戸・大阪・三越店 / 神戸・丸栄店 /  
名古屋・オリエンタル中村 / 名古屋・大阪国際空港・神戸鉄道弘済  
会・丸物店 / 岐阜・豊橋

クリスマスのプレゼントに  
華やかなあなたをかざるおしゃれな  
神戸眼鏡院のメガネ

おしゃれ メガネの

**神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎ ③ 3112代  
三宮店・さんちかタウン ☎ ⑨ 1874~5



軽く  
はきよく  
あたたかい

*merry  
Christmas*

ブーツが  
クロスの店に  
そろいました

★★★★★  
靴と舶来雑貨 **クロス**  
★★★★★

舶来雑貨 神戸トア・ロード TEL ⑧0998  
婦人靴 三宮地下街(さんちかレディスタウン)  
大阪阪神百貨店 TEL 361-1201  
京都丸物百貨店 TEL ⑧1111

## ★神戸の集いから



★壇上重光氏「野ざらしの芸術」処女出版記念パーティー開く

★秋晴れに津高和一氏の庭にて絵画展

★ベタの会神戸展開く



神戸新聞社専門調査部の壇上重光氏が処女出版した「野ざらしの芸術」の出版記念パーティーが10月7日6時から、神戸国際会館2階小ホールで開かれた。会場には、一谷兵庫県教育長、野地脩左神戸大名譽教授、宮崎神戸市助役、田中寛次神戸新聞社長の顔もみられ、同僚など約百人がお祝いにかけつけた。

神戸新聞社会部編の「祖先のあしあと」でも編集に加わった壇上氏も壇上重光としてはじめての出版。

一谷教育長は、「この壇上さんの著書は貴重で、県にとってもたいへん参考になります。県もいつそう努力して文化財保全にこだめています」とあいさつ。野地大名譽教授は「非常にうまくまとめた本で、たいへん読みやすいいことがある」とほめる。田中神戸新聞社長は、「わが壇上君は、まさに、野ざらしの壇上君だ。将来の特異な筆でますますがんばってほしい」と壇上氏の人材當時のエピソードをユーモアたっぷりに話し、激励した。宮崎神戸市助役の音頭で一同乾杯したあと、同僚のコーラスなどがあり、終始なごかな出版記念パーティーだった。

西宮の津高和一氏の庭に、今年も十月二十日、胸画など百点あまりが展示されており津高ファン約一五〇人が昼下りから日没まで交歓した。遊び、の雰囲気を盛りあげるために、庭にはエビールやまた、女を描いた小品が展示されて楽しく、ネコたちの散歩が広い芝生に陣取った人々の微笑をそそつた。

この日詩人の竹中郁氏が、カルダンスタイルでさつそうと現われ、女性の歎声をひびかせた。さすがにおしゃれ紳士と感嘆しきり足立巻一郎詩人・赤尾充子・俳人・陰舞臣作家・竹河幾々・オリエンタル・西村雅司・写真家・竹田洋太郎・花井一生・鶴原通正・関鏡・杉原賢治・山勝・花井一生・鶴原通正・関鏡・杉原賢治・正光力・森重子・上前智祐・神納武・佐藤信正・加藤義信・カメガシラ・ヨシキ・大橋幸子・木村照子・阪本昌也・鶯見康夫・平野裕久などモダンアートの面々がそろつた。十円・百円と値段が安いやいか若い人々や外国人が気軽にボイボイと好きな絵を壁面からがしてゆく。美術記者の高橋享氏は「何といつても絵が売れるのが楽しいですよ」と平常抽象画にとつつきにくるたちが、気軽に親しむさまが愉快そうだ。

生田筋の静かな廊下もあるにぎやかさだった。この期間中は活気

立体小品の展示即売会が、十一月一日と十三日まで、生田筋の安田画廊で開かれた。

ベタ一円十円百円千円一万円点美術展という面白、試みで値段が一円と千円まで種類多く展示されている。十一月二日のオープニングには村上三郎・嶋本昭三・三原泰治・寺尾匡子・土井晶代・山辺昇・堀尾貞治・原山勝・花井一生・鶴原通正・関鏡・杉原賢治・正光力・森重子・上前智祐・神納武・佐藤信正・加藤義信・カメガシラ・ヨシキ・大橋幸子・木村照子・阪本昌也・鶯見康夫・平野裕久などモダンアートの面々がそろつた。十円・百円と値段が安いやいか若い人々や外国人が気軽にボイボイと好きな絵を壁面からがしてゆく。美術記者の高橋享氏は「何といつても絵が売れるのが楽しいですよ」と平常抽象画にとつつきにくるたちが、気軽に親しむさまが愉快そうだ。

# ソレルとウルフ

淀川長治（映画評論家）

## ■赤と黒

スタンダールの「赤と黒」と「バルムの僧院」は年ごろになると一度は夢見るよう読みふける。「赤と黒」はスタンダールの四十六歳の作である。

それよりも一八二九年などというころに彼がジュリアン・ソレルなどという青年を描いたことで感心する。「バルムの僧院」のファブリスもソレルの再来。これを五十六歳のときに書いてスタンダールは五十九歳で亡くなった。

二十八歳で「恋愛論」を書いたり、死ぬ以前に自分で自分の墓碑を「生きた書いた、恋した」と指定したようにまさに当時のヌーベル・バーカーであるが、彼の作品が評判になりだしたのは死後二十年たつてからである。

なるほど一八二九年ではジュリアン・ソレルはあきれて物が云えなかつた不良青年に見えたのか。ところが今ではジュリアン・ソレルは青年のあこがれみたいになつて東京の目抜きの一流喫茶店にこの名を店名にしている店さえある。

これが一九五四年にフランスのクロード・オータン・ララ監督で映画化された。この監督の映画にはラディイゲの

「肉体の悪魔」やコレットの「青い妻」などもある。

さてジュリアン・ソレル（ジェラール・フィリップ）、ド・レナル夫人（ダニエル・ダリュー）、マチルド（アン・ネラ・ルアルディ）と思えば懐しい配役である。このジェラール・フィリップが一九五九年に心臓マヒで三十七歳の若さで急死したことはかえすがえすも惜しい。この「赤と黒」が再びリバベルで登場する。この映画に主役を演じたあと五年で死ぬとは誰が想像したであろうジェラールのこの美しさ。日本に来たとき場内に満ちあふれた観客を見て、その劇場の舞台にひざまづき詩をよんだジェラール。「一八二〇年それはフランスがナポレオンの失脚のため再び僧侶が軍人に代つて権力を握つた年であった。この「赤と黒」を冬ちかい夜もう一度今は亡きジェラールで見るさびしさは、さびしさを楽しむ悲しみのぜいたくさとでもいうのであらうか。（色彩作品）

## ■バージニア・ウルフなんかこわくな

二時間十四分この白黒スタンダードの最も新しいリズとパートンの作品は初めつから終りまでガンガンしゃべり



にしゃべりまくつて目もくらむばかり

である。この作品でリズはアカデミー

主演女優賞を取るのはないかと思

う。リズがすっかり、かけひきなしの

「女優」になってしまっているからで

ある。これは日本でも上演され、しか

も奇妙なことに当つてしまつたエドワ

ード・アルビーの舞台劇の映画化であ

る。奇妙なことはこれが愛の時

限をのりこえた理解するにやや困難か

とも思える一種のディスカッション・

ドラマだからである。アメリカでもこ

れは初めオフ・ブロードウェイで上演

された。とてもブロードウェイの本通

りの客に見せるものとは考へてはいな

かつたからである。これが評判を高め

ついにブロードウェイの一流劇場に移

されたのであつた。ブロードウェイの

観客もそう馬鹿にしたものではなかつ

たのであつた。

作品である。

大学総長の娘とその学校の歴史学教

授が結婚して二十三年目。その二十三

年間のもうすっかり身も心も他人同志

でない遠慮のない夫婦その家その部屋

そして机の上の灰皿や酒のびんやコップ

までが二十三年間の年数を思わせ

る。その美しくもない家のセットがす

ばらしい。映画を見てきたのか夜遅く

帰つてきたこの夫婦が口喧嘩みたいな

日常の会話をやつているところへ、若

い夫婦がやつてくる。バートンはちょ

と驚くが、リズが私が呼んだのよと

平気。この若い夫婦の良人のほうがこ

の学校の新任の生物学教師なので総長

の娘や先輩の歴史学教授に招かれては

こんな夜ふけといえどもイヤとも云え

なくて笑顔を見せてやつてきたわけで

ある。この作品はこの若夫婦を通して

(利用して) 主役二人の愛をたしかめる。

二十三年間もの夫婦生活は今日の

アメリカでは一種の恐怖なのである。

別れる理由がなくとも別れても一度

この人生を楽しめねば人間として失敗

みたいな錯覚にとらわれかねない。面

白いことにこの夫婦は子供を持たぬこ

わさを恐れ二十一年間ふたりつきりの

空想の子を持つていて、今夜はその男

の子の二十一年目の誕生日なのである

四十女が五十男の良人との間のこのよ

うな愛の結びつきをいつべん叩きつぶ

してみせようと思つたのだが、この夫



夫婦」という傑作があつた。これはアメリカの小説家シンクレア・リュイスの「ダズワース」を舞台劇にしたもの映画化であったが、この一九二九年に発表された小説はアメリカの中年夫婦が結婚二十年目くらいにもう一度ヨーロッパに第二の新婚旅行に出たとき

に旅さきで夫婦別れてしまう「夫婦」という問題をとりあげたものであつた

が、それから三十七年たつた今日のアメリカがその夫婦を、その夫婦の「愛」をあらためて、きびしく見つめたものが、こんどのエドワード・アルビーの

コルズの演出がすばらしい。